

令和四年茨城県支部俳句大会成績（事前投句）

日時 令和四年四月二十三日

場所 茨城県立青少年会館

本部選者 長嶺千晶（俳人協会幹事）

長嶺千晶特選

鬼太鼓時に奇声の佐渡の冬

海老沢静夫

うすらひを捨て鶏に水を足す

染谷 翠溪

炬燵猫主の暮し知りつくす

袴塚 竜子

大竹多可志特選

ウイルスの見えぬ恐怖へ豆を打つ

坏 文雄

もう後に引けぬ流れや桜桃忌

砂金 祐年

野火を見る人皆暗きものを持つ

井川 水衛

笹川昌子特選

授乳室の天窓まろし日脚伸ぶ

平野 悦子

ふぐと汁ほろほろ人を忘れをり

内山 花葉

煤逃げのかなはぬふたり暮しかな

海老原元彦

今瀬剛一特選

母の手の美しかりし鏡餅

笹川 昌子

こんもりとお薄のみどり春立ちぬ

和田ゑみこ

待つ人のある窓明り牡丹雪

石塚 一夫

桜井筑蛙特選

茶を点つる音のかるやか春障子

大島 良子

菜園は老いのオアシス春立ちぬ

萩原 清

手作りのひひな光の中に座す

栃木絵津子

入賞作品（高得点順）

てばたきのできる赤児や初電車

栗田 幸一

千枚の田を一枚に昨夜の雪

小川みのる

休業の果ての閉店鳥雲に

砂金 祐年

うすらひを捨て鶏に水を足す

染谷 翠溪

人参の色たのもしき予後の食

坂本ふく子

春陰や人を悼むに酒少し

小川みのる

野の花の一輪混じる蓬籠

久保田至誠

行く春や秘仏にのこる薄き紅

久保田至誠

ふぐと汁ほろほろ人を忘れをり

内山 花葉

小鳥着てをり公園の滑り台

永山 憲子

綿虫と日暮の橋をわたりけり

和田ゑみこ

出荷する農学校のチューリップ

平野 悦子

朝靄に搔くや汽水の寒蜩

坏 文雄

酒蔵の大き扉や寒明くる

笹川 昌子

夢持てと短き祝辞卒業す

飛田 伸夫

鳥帰る列崩してはととのへて

永井 弘子

堰に来ていよよ膨らむ春の水

久保田至誠

茶を点つる音のかるやか春障子

大島 良子

待つ人のゐる窓明り牡丹雪

石塚 一夫

柔らかに鍬の一鍬春の土

沖山 政子

## 令和四年茨城県支部俳句大会成績（当日句）

### 長嶺千晶特選

畑を打ち働く畑にしてをりぬ

飛田 伸夫

骨董のいくつ売るるや春眠し

坏 文雄

すかんぽや遠き記憶は哀へず

小川みのる

### 大竹多可志特選

湖からの風や若葉の美術館

矢須 恵由

転勤の別れ幾たび辛夷咲く

飛田 伸夫

長閑さや貨車より牛の貌覗く

北郷 三雄

### 笹川昌子特選

桜蕊降るともなく降りにけり

小木津閨子

白鳥千羽引きし水面のやはらかし

津田ふみ子

息足して子どもに返す紙風船

板場 俊仁

入賞作品（高得点順）

長閑さや貨車より牛の貌覗く	北郷 三雄
絶え間なく動く鳥影春障子	小川みのる
永き日や急須の若葉のひらききる	永山 憲子
息足して子どもに返す紙風船	坂場 俊仁
湖からの風や若葉の美術館	矢須 恵由
麦秋や文字びっしりと護国の碑	中村 孝道
白鳥千羽引きし水面のやはらかし	津田ふみ子
夏みかん割って結論また先へ	中村 孝道
卒寿なほ働ける幸春闌くる	池田 春陽
転勤の別れ幾たび辛夷咲く	飛田 伸夫
鳥帰る年輪刻む園の木々	矢須 恵由
花筏見えぬ絆にみちびかれ	和田ゑみこ
畑を打ち働く畑にしてをりぬ	飛田 伸夫
桜蕊降るともなくて降りにけり	小木津閨子
大銀杏の瘤にも芽吹き雨上がる	津田 文子
猫の子のひかりまみれとなりてをり	笹川 昌子